

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成22年9月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4675200226号
法人名	有限会社 文月会
事業所名	グループホームこころ
所在地	鹿児島県始良市加治木町西別府2820番地3 (電話) 0995-63-6300
自己評価作成日	平成22年8月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kagoshima-kaigonet.com
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成22年9月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

加治木町の西別府にあり周りを畑に囲まれている。高齢者が作物づくりや週1回のグランドゴルフ等を楽しみに生き生きと過ごしておられる地域に所属している。朝晩の農作業をされる姿が刺激になったり、周囲に作られている作物にも季節感や楽しみを見出している。各部屋の窓から見える山並みの景色は人がゆったりとした気持ちになれるような環境にあり、老後を静かな環境で生活されたい方に向いている。当グループホームは1ユニットであり、小規模であるため、家庭で生活しているような共同生活を目指している。理念でもあるが、お互いが家族のように真意で付き合い、本心から喜怒哀楽を表現し、ご家族も含め安心してここで生活したいと思っていただけるように、コミュニケーションを図り支援に努めている。

始良市加治木町の小高い地に位置する当ホームは、まわりを畑に囲まれ、利用者が生きがいをもって生活できるよう、日常の役割や楽しみを継続できる環境づくりを行っている。行政、地域、家族との連携を図り、利用者の人格を尊重し常に理念に沿った支援と、利用者の立場に立ったサービスの提供に努め、利用者が本来の笑顔が見える支援に取り組んでいる。すでに退所した利用者の家族とも継続した関係が維持され、運営推進会議への参加やボランティア支援をもらっている。職員も勤務しながら介護福祉士の資格を3名も取得、当ホームで意欲的に働いている。管理者は職員が馴れ合いにならないよう話し合いをもってレベルの向上を図っている。職員同士の和を深めるため職員旅行も実施している。管理者、職員の努力が利用者の笑顔に反映されているホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ミーティングの際や関わりの振り返りの際に現在、ここで喜怒哀楽を共にし生活し真の姿でいることができるのか、その支援ができていのか話し合う。	理念はパンフレットに掲載したり、運営推進会議で啓発したりして、管理者と職員が共有している。そして、利用者の自然な笑顔を目指し、日々のケアに努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	地域の行事への職員の参加、回覧板等や郵便局、商店へ入居者と同行し、入居者への理解を深めている。	自治会に加入し、利用者と共に回覧板を届けるなど地域住民と挨拶や会話が日常的に交わされている。子供の七夕飾り、ひな女踊りへの訪問や小学生の総合学習などを受け入れている。ホームは地区住民の高齢者介護、認知症相談の場として地域との交流ができていいる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の方々からの相談等に対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会の開催についての意見要望を検討し実施。入居申し込みについての提案と追跡調査についての検討。実施結果についての報告等。地域運営推進会議の中で検討した。	運営推進会議は、定期的に地域、家族代表、行政、民生委員、それに以前利用していた家族も引き続き参加して開催している。防災、徘徊時の見守り、美化作業、ボランティアなど地域、行政の協力が密になる会議内容で、サービス向上に活かしている。	

鹿児島県 グループホームこころ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村からの問い合わせに応答している。事業所からも不明事項や疑問に対して市町村に対応していただいている。	行政と情報交換を密にして連携を取っている。またキャラバンメイトにも参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	対応が必要と思われる入居者に対しては身体拘束検討委員会で回避の方法を検討している。研修に参加している。	身体拘束委員が研修会に参加して、ホーム内で勉強会を実施している。日中は鍵をかけないで、職員の見守りを徹底し、利用者の自由な暮らしを支援している。地域自治会にも協力を得て見守ってもらっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	それぞれの表情や身体の状態を把握し少しの事も見逃されないように努めている。研修で学習している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加している。職員間で研修内容を共有できるように記録として残している。		

鹿児島県 グループホームこころ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居時にご家族と十分に説明を実施し理解や納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者やご家族の態度や言葉からその思いを察し気づいた時点で伺い、入居者本位の運営に生かせるように努力している。	苦情の受付については、重要事項説明書に記載し説明している。ホーム便りを年4～6回発行している。面会時やホーム行事に家族が参加した際、意見や要望を聞いている。家族や利用者からの意見要望に関しては、ミーティングで話し合い情報の共有ができています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで報告し意見要望を聴いている。	開設当時の職員が大半で、職員は介護長、身体拘束検討委員、行事担当などの役割を持って勤務し、自分の意見や提案を運営に反映できる環境にある。資格取得支援、研修会への参加も促している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員同士の和を深めるため、職員旅行を実施している。職員同士のコミュニケーションが深まる事により、介護に対する連携等がとりやすくなっている。		

鹿児島県 グループホームこころ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>介護福祉士資格の取得や介護支援専門員の資格取得を勧めている。研修への参加を支援している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会主催の研修会等で交流を深めている。他施設研修は計画しているが今年度はまだ実施にいたっていない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前、入所時にご本人に聴き取り調査をし安心を得るための関係づくりに努めている。入所の際は使い慣れた物、着慣れた物を揃えていただくよう協力いただいで混乱を避けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、入所時にご家族に聴き取り調査をし安心を得るための関係づくりに努めている。家庭での対応やどのような事で安心が得られていたのか教えていただくように務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活全般を支えながら24時間共に生活する中でその方が必要とされているサービスを見出し、提供がある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者同士が気持ちよく共同生活ができるような環境づくりを目指し、その方の得意なこと等を見出し発揮していただいている。		

鹿児島県 グループホームこころ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時や支払時、こころ便りでホームでの姿がわかるようにご家族に身体の事や、衣類の事、最近の出来事等予め伝えている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>かかりつけ医への受診の継続。面会時自室でゆっくりとお茶を飲みながら家で過ごすように過ごしてもらう等の職員が支援に努力している。</p>	<p>お寺や自宅訪問、理容所などへの外出を支援している。利用者は、畑仕事をしている住民とホームの庭越しに会話をすることもある。以前ホームの利用者だった家族が、大正琴演奏や畑作りなどを通じて、友好関係を保っている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>食事は入居者も共にし会話をしたり役割を通して関係づくりをする。座席の調整等支援し楽しく会話ができるように支援している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>家族からの相談を受けている。ボランティアとして畑づくり等や大正琴等の受け入れをしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人はどのように暮らすことが最良なのか家族と共に考えるように努めている。本人の表現手段を理解しどのように生きたいのか汲み取ったり、真意を推し測ったりしている。	日常生活の中での表情や行動、また、本人や家族と会話する中から意思表示の把握に努めている。ほとんどの利用者が意思表示はできるが、困難な場合は職員で話し合い、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人、居宅支援事業所の介護支援専門員等から入所前にサービス利用の経過の把握に努めている。また、入所中にも必要事項についてはご家族から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者ひとりひとりの生活の中からそれぞれの行動や生活力については把握し支援のための情報の共有化について努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族から生活の意向を聴き、職員からの情報やご本人の状況をアセスメントし介護計画を作成している。	本人、家族、職員で話し合い、個別の記録や気づきをもとに自立にむけた介護計画が作成できている。3ヵ月ごとのモニタリングで見直しを行っている。	

鹿児島県 グループホームこころ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	睡眠や食事、問題となる場面等記録し職員で共有し計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要時はお寺や、自宅、理容所への外出支援等行っている。骨折後の病院へのリハビリ通院支援など実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域自治会の理解をいただき見守っていただいている。入居者の徘徊時に地域の方から連絡をいただいたり、散歩時など言葉かけを入居者や職員にいただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に希望を聴取し入居後にかかりつけ医への受診の頻度や受診内容等や病状等どのような状況に受診するかのタイミング等話し合い家族にも計画説明の際に説明をおこなっている。	かかりつけ医の受診支援、協力病院、ホームの連携がよくとれている。変化があればその都度家族に報告している。緊急時の受診は家族にも付き添ってもらい適切な医療を支援している。	

鹿児島県 グループホームこころ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	報告や連絡が適切になされ早めの対応を行っている。微々たる変化にも職員が気づき記録や看護師に直接報告され、それに伴い適切に対応がなされている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入所時や受診時どのような状況や状態になった際に入院を必要とするのか、再入所可能な時期の見込み等主治医と連絡し連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族と話し合いを行い、どの状況であれば、入居の継続が困難になってくるのかの話し合いをしている。ご家族の要望や意向についても医師や家族と認識を共有している。	入居前にホームで対応し得る最大ケアについて説明している。利用者の状態に応じて医師、家族、関係者と方針を話し合い、共有している。利用者の介護経過記録の中に経過内容が克明に記載できている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は実施できていないが、ミーティングの際にその対応について話し合う、予測できる事について学習する等実施している。		

鹿児島県 グループホームこころ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練の実施。呼び返し応答電話に時間がかかり、避難対応が遅れる事が問題になり対策について学んだ。訓練その都度に課題を持ち学習している。</p>	<p>消防署員立会いの総合訓練を年2回、ホームの利用者、職員のための自主訓練を年1回実施している。運営推進委員会メンバーや自治会の消防団員の協力を貰ったりシュミレーションを含めた訓練が出来ている。備蓄も完備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄に対しての言葉かけには注意している。また、人前で失敗しないように配慮している。今年度の目標として自尊心をそこなうような言葉かけに注意するとして努力している。	「自尊心を損なうような言葉かけをしない。」を、今年度の目標に掲げ、職員全員が努力している。利用者の人格を尊重し、利用者の心情を大切にしたケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表現しにくい方にはご本人の意見が表出できるような言葉かけに心掛けている。時間をかけていくつもの選択肢を提案し自己決定ができるような支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れはあるが、その方の体調などに合わせて自室で過ごす等の気持ちを尊重して支援している。その際は環境の調整に配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	一人で整えられる方は本人の意向に任せている。必要によって、声かけ支援をしている。できにくい方にも、職員と一緒に考え鏡を見て声をかけながら支援している。		

鹿児島県 グループホームこころ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭菜園の野菜等目の届くところに飾り季節の食材を話題にする。食事作りへの参加。味噌づくりへの参加等により職員と共通の話題を通して食への楽しみを持てるように支援している。	食事の準備や調理、片付けなど職員と利用者が一緒に行い、食事が一日の大切な活動の一つになっている。利用者の状態に合った献立、食器も利用者に応じて選択している。弁当持参の花見やドライブして外食を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取していただく形態や量、摂食の支援等ひとりひとりの力に応じて実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に言葉かけや介助等をかならず実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄習慣を理解し言葉かけを行い、尿取パッドの使用を減らしている。手摺等の使用でトイレ使用を可能にしている。	一人ひとりのサインを全職員が把握し、オムツをしないよう支援を行っている。職員は実際にオムツを着用してみて体感し、自立支援の共有化が図られている。	

鹿児島県 グループホームこころ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や運動等言葉かけをおこなっている。便秘により行動障害や精神的に不安定になる対象がある事を理解し、食事や睡眠、日常の生活への関連も理解している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴曜日や時間は決定しているが本人の意思があれば、入浴していただき支援している。入浴の支援は出来ることは自分でしていただくよう声かけや見守りをしている。	入浴時間外でも希望があればその都度対応している。見守りや介助の支援で一人ずつの個浴を楽しんでもらっている。温泉や足湯も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息の必要な方には休息の時間を設定したり、テレビ視聴後入眠する等不眠になる要素を検討し原因の解決に努めている。朝の規則正しい覚醒への支援に力をいれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての情報が理解できるように薬情等を記録に添付している。とくに重要な薬剤については説明を行っている。		

鹿児島県 グループホームこころ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>ご本人の力量を考慮し、それぞれの得意な事は依頼し達成できるように支援し感謝の言葉をその都度伝えるようにしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>ご家族の方とご主人の面会に行く、墓参りや位牌まいりに行く、食事に行く、娘宅に行く等出かけられる。庭に出て畑を見るなどして楽しむ。</p>	<p>日常的に回覧板を届けたり畑仕事中の住民と話をしたりしている。ドライブ、買い物、郵便局、役場、高岡公園などへ外出し、気分転換を図っている。加治木町の初市へ行ったり、溝辺や霧島へドライブし、足湯に浸かったりしている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の所持は一人しかしていない。病院受診や日用品の購入、衛生用品の購入などの購入にしようされている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話の支援をしている。また、はがき等の購入をし手紙の支援をしている。</p>		

鹿児島県 グループホームこころ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外が眺められるような配置にしたり、玄関の戸を開放し自由に出入りできるようにしている。季節の花や野菜など目に入る空間に置き話題になるようにしている。	利用者手作りの絵手紙などが飾られたリビングから、農作業をしている人の姿や季節の野菜、花が眺められるようになっている。テーブル、椅子、ソファの配置も工夫され、利用者と職員が1対1で発声を促すための会話が弾む雰囲気作りができています。また整理整頓されて清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室で過ごされる方や、自室に入居者同士で集まり語っておられるのも見かける、その際はイスの準備や室温調整等したり、職員も一緒に参加する。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は使い慣れた物を準備していただくよう説明している。また、写真や衣類などは特に普段使用していたものを持参いただいている。	電動ベッドとタンスはホームで用意され、布団、時計、椅子、ぬいぐるみ、家族写真、位牌など置いて利用者個々の居室として安心してくつろげるよう工夫されている。布団をたたんだり、清掃や整理整頓が一日の流れの中に定着し、リズムをもって生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで手摺が利用できるようになっている。単純な同線になっている。ADLによりトイレの位置を近くする等維持できるように工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホームこころ

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホームこころ

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない